

新春を迎えて



幌延町長
宮本 明

新年あけましておめでとうございます。平成22年の輝かしい年のはじめを、町民みなさまとともに元気に迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

昨年、歴史的な政権交代の年となり、私たち国民ひとりひとりの持つ1票の重さを実感させられました。しかし、新政権下においても長引く不況は簡単に終結させられるものではなく、更に無駄をなくすための事業仕分けなどにより、先行き不透明な状況がまた暫く続くものと思われまます。

このような状況下にあつて、わが町は昨年に引き続き今年も、大きな公共施設の建設事業を進めてまいります。日本原子力研究開発機構の国際交流施設と連携した施設として建設される生涯学習センター、町立診療所、町道のバリアフリー化、情報基盤整備など、い

え、実施することとしました。このようなハード事業とあわせて、町民の健康づくりや子育て支援などのソフト事業にも力を注いでまいります。そのほか、懸案でありました国道40号の幌富バイパスが今年3月に開通いたします。町民みなさまのご活用と、一層の安全運転をお願いいたします。

町では、深地層研究事業などの研究成果があたりはじめ、昨年は地域との交流の場として深地層研究センター国際交流施設も開館いたしました。国の重要なエネルギー政策である原子力発電は、低炭素社会の実現とあいまって益々重要となっております。核燃料サイクルの中で最後に残された課題として、放射性廃棄物の処理処分のための研究は非常に重要なものであり、たゆまぬ研究により、その安全性を確立していただくとともに、この研究事業が地域振興に寄与していただくことを期待しています。

さて、幌延町は今年、町制施行50周年という節目の年を迎えます。昭和35年、町制が施行されたときの人口は7,432人でした。現在の人口は3分の1をきつてしまいました。が、生活環境などは格段に改善されています。基幹産業である酪農も、この50年の間に機械化、大規模化が進められてきました。一方で、都市部への若者の流出、離農などが続き、過疎化は一層進んできています。この50周年をきっかけに、「ふるさと幌延町」の来し方行く末を町民みなさまと一緒に考え、語り合う年

にしたいと思えます。

また、わが町は今年4月、北海道の支庁制度改革に伴い、長らく一緒に連携してきた留萌管内から、おとなりの宗谷管内へ移管となります。すでに医療や買物など、生活圏としては稚内市との結びつきが強いことや、観光、産業においても共通項が多いことなどから、北海道において14の支庁が9つの総合振興局と5つの振興局へと生まれ変わる機会に、宗谷総合振興局への編入を要望したものです。移管に伴い、しばらくの間ご不便や戸惑いを感じられることもあるかと思いますが、生活の面で大きな変化はあまりないと思えますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

昨年4月に施行した「幌延町まちづくり基本条例」の実効性を上げる取組みとして、昨年12月の定例町議会で議決をいただいた「幌延町安全で安心なまちづくり推進条例」が本年4月から施行されます。犯罪や災害による重大な被害のない、安全で安心な地域社会の実現に向け、町民、町、事業者、関係行政機関等が推進すべき事項等をまとめました。「幌延町地域防災計画」についても、全面改正をしており、それぞれの立場で安心のまちづくりに取り組んでいただきたいと思います。

私が町政の舵取りを担わせていただきました2期目の任期も残すところ1年となります。先人たちが、艱難辛苦を乗り越えて開拓してきたこの町を、小さいながらも夢と活力に満ち、町民相互のコミュニケーションや助け合いにより安心して暮らせる町としていくため、町民みなさまと手を携えて邁進してまいります。

新しい年が、希望に満ちた明るい1年となるよう願いますとともに、町民みなさまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。